

# 令和元年度第2回東温市総合教育会議会議録

開会の日時及び場所 令和元年12月19日(木) 午前10時00分  
東温市庁舎 4階 405会議室

議事に出席した委員	東温市長	加藤 章
	教育長	池川 仁志
	教育委員	菅原 正夫
	教育委員	本田 隆彦
	教育委員	水岡 明美
	教育委員	清家 隆夫

議事に出席した職員	総務部長	加藤 厚志
	教育委員会事務局長	渡部 祐二
	企画政策課長	田中 聡司
	産業創出課長	山本 一英
	健康推進課長	野中 忍
	学校教育課長	橋本 武
	保育幼稚園課長	山本 健吾
	生涯学習課長	近藤 照雄
	学校給食センター所長	菅野 美香
	企画政策課長補佐	桑原 和宏
	学校教育課長補佐	松本 則一
	学校教育課指導主事	橋本 英樹
	保育幼稚園課長補佐	近藤 和明
	産業政策課係長	氏部 直人
	健康推進課係長	河端 千津子
	学校教育課主任主事	薬師神 賢治

傍聴人 2名

## 1 開会宣言

渡部事務局長 (開会を宣す。)

## 2 市長あいさつ

加藤市長 本日2名の方が傍聴を希望されておりますが、傍聴について許可をしてよろしいかお諮りをしたいと思います。よろしいでしょうか。

全委員 (承認)

加藤市長 ご承認いただきましたので傍聴者の入室をご案内してください。  
(傍聴人入室)

加藤市長 開会にあたり一言ご挨拶を申し上げます。本日は年末を迎えまして大変ご多忙の中、第2回総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃より本市の教育行政推進については格別のご支援、ご指導いただいておりますこと厚く御礼申し上げる次第です。この総合教育会議においては市長部局と教育委員会で直接意見交換ができ、その意味でも意思疎通は図られていると思っております。また、委員の皆様においては、これまでもこの会議を通して教育行政における様々なご意見、ご提言をしていただくなど大変有意義な会になっているということも実感しておりますし、その意味で重ねてお礼を申し上げる次第です。

さて、子どもたちを取り巻く教育環境ですが、近年大きく変化しており、今後ますます広域化、複雑化していくと思われる子供たちの社会において更なる教育と支援を進めていくためには、やはり教育委員会と市長部局の連携が非常に大切ではなかろうかと考えているところです。東温市全体の教育が今後ともより良いものになっていくことが今申しあげましたように大変寛容であろうと思っております。その意味で本会の持つ役割が非常に重要であると認識しておりますので、本日も皆様方のご協力をいただき教育行政が現在の社会背景にマッチしたような実効性のあるものとなるようご検討を頂ければ幸いです。そして、5月1日現在の人数で申し上げますが、小学校においては1,799人、中学校では878人、保育所は522人、幼稚園は272人という東温市の大切な子どもたちを預かっているところです。ご案内のように10月1日から幼児教育、保育の無償化が始まりまして、これからの保育所、幼稚園等々の申し込み動向も気になると思いますが、これらについては適宜またご報告申し上げたいと思います。

改めまして、本日の議題ですが、教育行政の現状と課題として、滑川野外活動研修施設の利用促進策、もう1つが学校給食の充実と食育の促進についてご協議を申し上げたいと思います。委員の皆様は今申しました通り忌憚のないご意見を頂戴し、本市の教育行政がさらにもう一歩進みますよう心からお願い申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

それでは次に早速議事に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

### 3 議事

#### (1) 東温市の教育行政の現状と課題について

##### 第1号 滑川野外活動研修施設の利用促進策について

近藤課長 (当日資料1、2ページおよび添付資料に基づき説明する)

田中課長 (当日資料3ページに基づき説明する)

山本課長 (当日資料4ページに基づき説明する)

加藤市長 以上3つの関係する課から今までの経過、現状、課題、具体的な施策等々説明がありましたが、総合的に滑川野外活動研修施設の利用促進について、それぞれの委員さんから全体で進めていきたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。なお、私事も含めて申し上げますが、滑川の泥んこサッカーについては東温市役所のチームも地域おこしの活性化のために行こうということでチームを作り、私も参加して、当日はおそらく地元の人口よりもそこに来てくださった方々の方が多く、また、色んなボランティアやブース、食べ物、食材等提供いただきました皆様にもご協力いただきまして、活性化につながったというのを実感しましたので一言だけ申させていただけたらと思います。それではどなたからでも結構です。よろしくお願ひいたします。

菅原委員 野外活動研修施設、ここは当初の計画時の利用人員が940名。実績が平成30年度で2,499名。3倍近いし、まだこれから増える状況にあるわけですね。そういう計画人口よりはるかに利用人口が高いわけで、色々な問題が出てきておるんではないかと、宿泊はできないとか色々あるんですが、これはそうは言ってもできると思うので、ぜひ手続等やっていただきたいと思います。それと、管理の問題ですが、どのくらいの管理料ですか。また、企画政策課からの話があった滑川清流ハウス、ここはどういう体制でやられているのか。ここについてもどのくらいの管理料を予算組まれているのかお教えいただきたい。そして、駐車場の確保が大事になると思うんですが。産業創出課も言われているように、利用者は公共交通機関というよりもマイカーで行かれるわけですが、あの道路を少しでも離合できるような拡張工事を整備に合わせてやっていく必要があるのではないですか。

近藤課長 まず施設の維持管理の費用、人件費相当ですが月額5,500円で12ヶ月、

年間管理で計 66,000 円です。

菅原委員 利用人口が増えるということは、それだけ色々な問題が起きるというわけですから、管理の在り方はしっかりと考えていかないといけないんじゃないか。地元の方 1 人がやられているんですか。

近藤課長 はい。

菅原委員 宿泊研修棟を夜間利用するとやはり管理人が常駐する必要がないにしてもすぐに施設に行く体制は敷いておかないかんわけで、それなりの管理体制を敷かないとこれ以上人数が増えると夏、秋は大変なことになるんじゃないかと思います。

田中課長 滑川清流ハウスは地元の組織、滑川清流クラブが運営していただいております。その中でメインとなるのは観光案内所で、基本的には地元の方が運営しておりますので委託というのは市ではしていません。

菅原委員 地域協力隊の方はどういうふうに絡んでいるんですか。

田中課長 地域協力隊の方も当然そちらの方に協力して、地元の支援をいただいております。

菅原委員 地域協力隊の方から、もう少し市から経費が欲しいとかそういう話があるのかないのか。

田中課長 まず、滑川清流ハウスなんですが、これは改築して今現在に至っております。地域の活性化については地元とか協力隊を通じて補助金で色々な事業を行っているということになっています。

菅原委員 色々な制度ができていますね。いいことですね。

本田委員 どのような活動を狙っているかで対応も違ってくるかと思うんですが、考えられるのは学校、地域の子どもたちが利用するという一つの方法もあると思うんですが、食事の提供なんかが問題になってこようかという気がします。給食センターから食材を運ぶことができないかとも考えます。また、雨が降ったら、研修棟が使えないのであれば大型のテントがあれば安心して子供たちも連れていけるのではないかと思います。市民の憩いの場、家族での利用等も考えられると思うんですが、現在前の川も浅くなって水量も少ない状態になっている。前は泳げる状態もあったんじゃないかと思うんですが、先日見てみましたがそのような状態にはない。やはり遊びあるいは体験の場としては物足りない感を感じております。ツリーハウス、あるいはアスレチック、木の遊具、マウンテンバイクのコース、そういったような子どもたちが時間をつぶせる、体験ができる設備の整備というのが必要ではないかと思います。ただ、流行、衰退しますので、お金をかけた設備は難しいでしょうし変更ができない

のではだめなんで、簡単に活用できるような設備を考えていく必要があるかと思います。市外からの集客の場合は今キャンプも流行になっています。本格的なキャンプをしたい方と簡単に楽しみたい方と二極化されていると思うんですが、本格的に楽しむ方というのは車で色々物を積んでやってきて宿泊されると思うんです。そうすると車が乗り入れできるオートキャンプのスペースというのも考えてみる必要もあるのかなと思います。周辺で空き地が使っていない部分もあるのではないかと思いますのでそういった整備もできるのではないかと思います。また、手ぶらでキャンプを楽しみたいという方のためには食材の配達、あるいは商品を予約しておいて取りに行けばセットで用意していただけるといったようなサービスの提供があれば訪れやすいのかなと思いました。いずれにしても訪れたいと感じる魅力がもう少しあればいいのかなと思います。滑川溪谷は大変風光明媚で見ごたえのある素晴らしい場所だと思います。あそこまで行って遊歩道を歩いたら素晴らしい感嘆もできる場所だと感じたんですが、掲示板はあるんですが、場所の名前はあってもそれがどの場所を指しているのかとか、名所の由来がどうなのかというような掲示までではないです。集団で来られた方にはボランティアが対応できると思うんですが個別に来られた方までなかなかボランティアの対応が難しいと思うので、所々に珍しい岩もありますので、もっと案内板を付けるということで魅力をアップすることもあると思います。一番ネックになるのは、あそこまで車で行こうと思ったら道を知っている者でも、途中、これ大丈夫かな。たどり着けるかな。といった感覚になってしまいます。道の整備はどうしても必要じゃないかと思います。滑川清流の森と滑川溪谷はセットにして売り出さないと難しいと思うんですが、滑川溪谷はまだまだ十分に魅力を発揮できていないんじゃないかと思いました。駐車場も少ないですし。駐車場にできるスペースはあるんじゃないでしょうか。釣り堀があったところも空き地として残っていたような気がしますので、是非そういった物を考えていただけたらと思います。せっかく四国 88 景に設定されている場所なんですが、アピールが足りない気がしました。名称も研修施設としてグーグルマップで見たら、そっちが出てくるんです。その名称を見たら泊まれる場所か遊べる場所かちょっとわかりません。市のホームページにキャンプ場として紹介されているのは、塩ヶ森のふるさと公園と上林の森林公園の2箇所ですが、滑川清流の森はアップされていないので、そこら辺のPRも必要かと思いました。お土産がないということでしたが、あそこは景色が一番のお土

産で写真でも撮っていただければ、インスタグラムにあげて頂いて宣伝にもなりますし市の方で例えば四季それぞれでフォトコンテストでも開けば集客も合わせて宣伝もプラスになるのではないかと感じます。

水岡委員

私もこの滑川清流の森に2度くらい市の企画で行かせていただいたことがあるんですが、こういう手続きがあったんだなあ今回初めて知りました。シャワー室もトイレも全部きれいでした。これを読むとキャンプした人は申請をしないとシャワー室が使えないということは残念なことで、夏とかは暑くて汗をすごくかくので、申請しなくてもその時に使いたくなかったという人にはお金を入れたら10分間だけ使えるとか、お湯が出るとか、使えるようになったらいいなあと感じております。滑川渓谷はそんなに登り下りがないので最後まで着くと本当に夏などは涼しくていいところなんでもっとPRしたらいいなあと思いました。また、道がすごく狭いので、もう少し道が広がったらいいなあと感じました。

清家委員

滑川は20年ほど前に行ったきりで最近行っていないので無責任なことですが、これを読ませてもらって、遊歩道がどんなふうになっているのかなあと思いました。行ってないから想像で物を言うところもあるんですが、国道から研修センターがあるところまで結構な距離があるんですが、その景色も結構なものだと記憶に残っているんですが、その遊歩道もあるんでしょうか。国道の近くの駐車場に停めて本格的に歩いて行きたい人もおられるんじゃないかと思います。遊歩道の整備も大事になってくるのではないかと思いました。あと、わんぱく広場以外で子どもたちがこの野外活動の場所を使うということはあるのでしょうか。もう一つは、施設を使って意見を聞いて、今後改善もしていったらいいなあと思いました。

加藤市長

ありがとうございました。ご意見、ご質問等いただきましたが、道路の問題、駐車場の問題、シャワー室等の使用手続き、そしてまたわんぱく広場以外の行事等についてご質問等もありましたが、それぞれ関係する課から簡潔にお願いします。

近藤課長

生涯学習課の所管としてお答えできる部分をお答えします。まず、周知するためのホームページの活用というのもございました。ホームページに載っていないというのを認識していなかったものですから、これはぜひアピールをしていきたいと思えます。他の事業についても、事業内容が良くてもアピール力が弱いというご意見をいただいておりますので、これらについてはぜひとも対応したいと思えます。キャンプ場に関しては、オートキャンプというニーズもあるというご意見もいただきました。

今、オートキャンプについては認めていない状況ですが、そのあたりは全体の利用形態について少し検討が必要かと考えております。子どもたちのわんぱく広場以外での利用はどの程度あるかという質問に対して、30年度の利用ベースで言うと、ボーイスカウトの子どもたちの利用というのも結構あります。川上小学校、東谷小学校、しげのぶ特別支援学校といった学校の生徒さんたちもデイキャンプではありますが、こちらの施設を活用したり、公民館活動の一環で、公民館の子どもたちを地元の方が連れてきてそこで日帰りキャンプを行うといった利活用がされておる状況があります。利用者の意見集約ですが、現状ではご意見箱といったものは置いておりませんが、利用者の声を確実に聞くという点でいけばアンケート等を今後行うということで更に利用者の利便性が上がるように努めてまいりたいと考えております。もう一点、滑川清流の森と滑川溪谷との連携がいまひとつできていないというお話もありました。確かに滑川清流の森に滑川溪谷が分かりやすくなるような看板が不足しているのも事実で、そのあたりについては今後観光を担当している産業創出課とも協議しながら可能な限り努めてまいりたいと考えております。

田中課長

企画政策課からわんぱく広場以外での市の利用状況ですが、まず、地域保全協力隊が企画実施した部分ですが、滑川ブックキャンプを平成30年度にしております。これは約150名の参加があり、本屋さんや飲食店などが集まる新しい本のイベントということで開催しております。泥んこサッカーについて、直接の施設ではないですが、隣のたんぼで開催して、平成30年度が12チーム102名の参加、今年度は16チーム130名の参加ということでだんだん人が増えている状況です。令和元年度このほかにも協力隊が実施したイベントとして、真夏の夜の音楽会 in 滑川ということで、アーティスト2名を呼んで音楽会を開催している状況です。この時の参加人数はおよそ30名となっております。

山本課長

道路については所管が違っておりますので、また、我々の方から担当課にお話しさせていただきたいと思っております。滑川溪谷については県立の自然公園のラインぎりぎりになっており、案内表示板を中にもっていくことについては県との調整が必要となってきます。今後のAIであるとかIoT、そういったところが活用できると思っております。最低限自然を傷めないように保護の観点からも我々でPRができればいいかなと思いました。東温旅遊びという冊子がありますが、これも外国語版も作り色々PRしておりますが、こういったところに四国88景で、四国で誰が見てもここは素晴らしいよね。と言っていたところがあるのであれば



これを前に出し売り込んでいきたいと思っております。それと、そこに地元の食材を提供できるような仕組みができればまたそこにも農家の方々が作ったものを新たに活用できるというのもありますので、大いに検討すべきであろうと思いましたが、観光物産協会と農林振興課とも話し合いながらそこで循環できる新たな仕組みをご提案させていただきたいと思いました。産業創出課、企画政策課もおりますが、この3つが連携してできることというのは多々あると思っております。色々なご意見も賜りましたので、これを機に我々も担当レベルからまた課長レベルでも話し合いを進めて行けたらと思いました。ありがとうございます。

加藤市長 以上のような各担当課からの今後のこのことも含め、説明がありましたが、教育長何かありましたら簡単をお願いします。

池川教育長 2点ほどお願いがあるんですが、まず滑川野外活動研修施設について、子どもたちの学びの場になったらいいなと思っております。施設の周辺を歩いていますと、施設ごとの草花、水生昆虫、貴重な地質、そして夜には美しい星座が見えるということを見ると、やはりそれぞれの課から提案してくれておりますが、生涯学習課で言えば研修棟の宿泊利用をできるようにしていくというような提案があり、ぜひこれを実現していただいたら夜空の観察もよくできるんじゃないかなと思います。もう1つは、観光ボランティアガイドの養成ということで、やはりこの自然をきちんとガイドするためには、植物、地質、天体、色んな専門的な分野の知識を持ったガイドじゃないといけないと思っております。ですから、観光ガイドの養成講座を開設するときそういう点も十分踏まえていただいて内容を充実させていただいたら、子どもたちの学びの場になってこようかと思っておりますので、難しい面もあるとは思いますが、よろしくお願ひしたらと思ひます。

加藤市長 ありがとうございます。お話の中で道路の問題が出てきておりましたが、これは確か県道ですので県の管理となっております。そしてご案内のように集中豪雨があった時にまず一番に通行止めになるのがこの道でして、各所で崩れの心配というものもありますし、また、滑川野外活動研修施設そのものが避難所にもなっておりますので、そのあたりを加味しながら今日頂いたご意見をまた土木の方の担当課とも協議しながら進めていきたいと思っておりますのでご了承いただければと思ひます。

## 第2号 学校給食の充実と食育の推進について

- 加藤市長 学校給食の充実と食育の推進について事務局説明をお願いします。
- 菅野所長 (当日資料5、6、7、8ページおよび添付資料に基づき説明する)
- 加藤市長 学校給食の充実と食育の推進についてということで事務局から説明がありました。先般議会で質問のあった地産地消の地元の数字だけご報告していただけますか。
- 菅野所長 平成30年度の実績です。愛媛県産率が99%で、うち東温市産率が44.6%。国内産率が1.0%。いずれも県が行っている地場産物活用週間における状況になっております。25年度から30年度まで、25年度が県内産率が60.2%だったものが現在においては90%を超える活用となっております。
- 加藤市長 ありがとうございます。健康推進課をお願いします。
- 野中課長 (当日資料9、10、11ページに基づき説明する)
- 加藤市長 ありがとうございます。関係2課からの説明が終わりました。食育、それから学校給食の推進について各委員の皆さんからご質問ご提言をいただきたいと思います。
- 本田委員 地産地消や今ご紹介いただいた様々な取組、どれにおいても大変素晴らしい取り組みをしていただいていると感じております。学校での食育は子どもたちが将来望ましい食生活を送る基礎を培うことだと思いますので、どの教育もですが、結果がすぐ現れるものではないと思いますので、長期的な見通しを持って今後もこれまで通り地道に根気よく続けていただけたらいいのではないかと感じております。ただ、ランチコンクールはもちろんですが、これは興味のある家庭や子どもが参加していますが、興味のない子どもたち、家庭を取り込むための手立てというのはもう少し努力が必要ではないかと感じております。そのためには学校での協力が必要でしょうからぜひ取り組んでいただけて今までの食育講座等の充実を図っていただいたり、例えば家庭科の時間を利用し、給食、調理、センターが食材を用意し、子どもたちにできる範囲の調理をし、給食として食べる取組、非常に難しいかも知れませんが、子供の実践力が育っていくと思います。もう一つは、レシピ集の発行なんかはどうでしょうか。給食は理想の献立だと思います。レシピ集を発行して家庭で利用していただくという手もあるのかなと思います。給食センターは専門家の方が調理されておりますので家庭へそのままおろすのは難しいと思いますので、お手軽にできるようなアレンジをしながら理想的なネタ等を紹介するのもいいのかなと思いました。
- 水岡委員 毎月月末に次月の献立と地産地消通信、食育便りが各家庭に配布され

ていて、いつもありがたいと思っております。そんな中で最近では、サケのピザ風味焼きというのが学校でも大好評だったようです。納豆味噌というのがよく出るのですが、納豆にひき肉が入っていてわが子も好きな給食メニューの一つです。子どもたちに食の大切さ、興味を持ってもらう献立になっていて、いつも感心するばかりです。5月21日のファミリーサポートで私も市民の一人として試食会に参加させていただきました。14人中10人は60歳以上の方だったんですが、今の給食っておいしいんだなあ。とすごく驚いておりました。来てよかったと好評いただいたので、今後もそういう方にも東温市には素晴らしいところがあるんだよ。というのもアピールしてはどうでしょうか。食べる人に食の大切さを伝える素晴らしい取組を今後もよろしくをお願いします。

菅野所長

お褒めの言葉をいただき、ありがとうございます。本田委員さんからのレシピ集の発行はいいアイデアかなと思いました。おっしゃられましたように、給食というのは大量調理となりますので、それをそのまま家庭に持ち帰って作っても同じような味が出ないというお声もあります。ただ、先ほど水岡委員さんから納豆味噌のお話がありましたが、納豆味噌というのはお家で作ってほしいという子供たちの意見が多いということで、レシピを個人的ではありますがお渡しするというのをやっております。家庭で作れそうなレシピについてはこういうものも来年度考えてみたらと思っておりますので、栄養教諭に相談をかけていきたいと思っております。ランチコンテストですが、昨年度から始まりまして、馴染みがないということもあります。また指定食材を決めており、穀類が東温市の食材でして、穀類をテーマにしたものを去年はしました。ただ、それではなかなかレシピが出てこないというのもあり、今年度は家庭の自慢料理というのでも入れさせていただきました。ですので、去年参加していただいた方で今年も参加していただいたのは1組。あとの6組については新しい児童でしたので、これがどんどん広がっていくともっとレシピが集まるのではないかと考えております。今後も募集の仕方もある考えやってみたいと思っております。施設見学については、過去は栄養教諭の考え方で、ここはレストランじゃないからというご意見があった時期もあったようです。ただ、今は東温市民の方に学校給食というのを理解していただく、学校に通う子どもたちがいない家庭でも今と昔と給食がどのように変わっていったか、自分の孫がどういうものを食べているか、というのを理解していただくことで家庭での会話も弾みます。実際にセンターを見学に来られたご家族は必ず給食のお話をするとお聞き

しています。皆さんにセンターに来ていただき給食を理解していただくというのは本当に必要なことであると考えておりますので、また広報とホームページ等で周知をし、できるだけたくさんの方に来ていただけたらと考えております。

清家委員 食育の推進ということで市の方で組織的に取り組まれているというのが分かりました。学校給食センターの方は月々の教育委員会の定例会で話を聞いておりますので十分理解をしているつもりですが、市の取組の流れとして、食育のことや安全安心な学校給食の提供ということも今までのことがずっと積み重ねられて、新しいことについてもこれから実績を積んでいき、輪を広げていこうというようなことで、息の長い取組になると思うんですが、今まで積み上げられたこと、またさらに発展させて欲しいと思います。

加藤市長 ありがとうございます。

菅原委員 料理コンテスト、これは話が出ておりますように色々問題があるのかもしれませんが、より充実したものにしていただけたらと思います。本当に良いイベントだと思います。その前に、今日は健康推進課の課長さんの方から説明いただきありがとうございます。食育というのはもちろん給食センターだけではなく、市と連携して進めていって欲しいと思います。特に給食センターには3人の栄養教諭の方がいるわけで、昔は栄養士であって、栄養教諭になって10年経たない歴史の浅い分野の職だと思うんですが、色んな方面で活躍する場を作ってあげたいと思います。そこで1つだけ、この学校給食センターの食育講座というのは具体的にどういうものなのか。それが知りたい。

菅野所長 まず、栄養教諭が3人で、給食を配食している学校が幼稚園も含めて15校です。3人が5校ずつ担当しており、その3人が所属している学校ももちろんなんですが、参観日に保護者の方がきた時に、講座を開き、食べることの大切さとか、朝食の大切さということを中心にお話をさせていただいております。また、学校によったら子どもと一緒に給食を食べるという参観日を設けている学校もありますので、その時に私たちも一緒に行き、給食を一緒に食べ、その後で保護者の方と懇談するというようなことも行っております。所属していない学校等については、同じように参観日に食育の講座を開いて欲しいという依頼が参りますので、栄養教諭が出向き講話をやっている状況です。

菅原委員 この課題の中に、給食では嫌いなものも食べることができるが家庭では好きなものしか食べていない状況が伺われるとあるが、おそらくこ

れはどこの家庭でも大きな問題だと思うので、そういう機会を通じて保護者の方に気長く地道に伝えていくことをやっていただけたら少しでも改善につながるんじゃないかと思います。

加藤市長       ありがとうございます。ちょっと蛇足になりますが、去年の愛媛 FC のオフシーズンの時に愛媛 FC の現役選手と私も含めて南吉井小学校の 2 年生と一緒に給食の試食をしました。一緒に食べながら話をしながらということで、非常に喜んでいただいたことがございましたので、ご案内のように愛媛にはプロチーム、愛媛 FC、オレンジバイキングス、マンダリンパイレーツがありますが、そういったことも協力すると、お声を各チームから頂いておりますので、また機会を捉えて進めて参りたいと思います。それでは教育長総括してよろしく申し上げます。

池川教育長       1 点お願いしたらと思うんですが、子どもたちの食を充実させるためには、学校給食をのぞいたら家庭に委ねるところが非常に大きいと思います。けれども、家庭によれば経済的にも家庭的にも苦しいところがあってなかなか食の充実につなげることができないところもあろうと思います。学校や給食センターはそのような家庭に支援を精一杯しておるんですが、やはり福祉の面からも迫っていただきたいと思っております。資料を見ますと、健康推進課が主催する食育推進会議があるということで、そういうような家庭への支援についても議題として挙げていただいて審議していただけたら非常にありがたく思っております。

加藤市長       ありがとうございます。今の食育推進会議は担当課の方でよろしく申し上げます。それでは以上で学校給食の充実、食育の推進についての協議は終わらせていただきます。

## (2) その他

加藤市長       最後にその他何かありましたら。よろしいですか。それでは以上で総合教育会議を終わらせていただきます。進行を事務局にお返しします。

## 4 閉会

渡部事務局長       (閉会を宣す。)  
(閉会 11 時 30 分)